

# 日本活断層学会 2023 年度秋季学術大会プログラム

11月10日（金）午後

一般研究発表（口頭）

座長：近藤久雄

- 13:10 O-1 日本の主要活断層帯のコミュニティ断層モデルの構築  
○吾妻 崇・安藤亮輔・コミュニティ断層モデル有志グループ
- 13:30 O-2 カルデラ境界断層のテクトニックな再活動：活断層研究とカルデラ研究の統合的視点  
○三條竜平・須貝俊彦
- 13:50 O-3 第四紀層を切る割れ目の検出，考え方  
吉村辰朗
- 14:10 O-4 島根県内で確認されている断層のスリップテンデンスに基づく現世応力場での活動性評価  
○島田昌弥・向吉秀樹

休憩（14:30-14:50）

座長：吾妻 崇

- 14:50 O-5 高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破碎帯に関する外部有識者会合の評価書の問題点  
○中田 高・渡辺満久
- 15:10 O-6 熊本地震の地表地震断層上における余効すべりの7年5ヶ月間の経時変化とその特徴—日奈久断層高野—白旗区間を対象に—  
○岩佐佳哉・熊原康博・住谷侑也・田渕雄一郎・坂本文隆
- 15:30 O-7 2023年トルコ、カフラマンマラシュ地震における断層幾何形状から得られた破壊伝播確率  
○原 勇貴・遠田晋次
- 15:50 O-8 東アナトリア断層系における2023年Mw7.8地震とカルタル地点のトレンチ調査  
○近藤久雄・セリム オザルプ・ハサン エルマジ・タメール ドウマン

11月10日(金)午後

一般研究発表(ポスター)

16:30-18:00 コアタイム

- P-1 研究機関と学会の協働による若手育成(その5):「第5回 活断層の学校 in つくば “国土地理院、産総研、防災科研で学ぶ活断層研究”」の開催報告  
○山口 勝・中埜貴元・吾妻 崇・藤原広行・  
中島秀敏・宮下由香里・宇根 寛
- P-2 ボーリングデータと微動 H/V スペクトルから推察される長町-利府線断層帯の活構造分布  
○中村朋暉・遠田晋次
- P-3 秋田県男鹿半島東部の断層変位地形と活動性  
○田力正好・越後智雄
- P-4 活断層近傍の山地流域で見出される斜面変動の履歴:巨摩山地・楡形山の周辺を例に  
○太田凌嘉・渡辺 樹
- P-5 令和5年奥能登地震で発生した地殻変動に伴う海岸隆起  
○飯田健太・小俣雅志・山田千尋・宮本 樹・  
杉本 惇・足達健人・橋本裕紀・西田圭吾
- P-6 飛騨高原北部に位置する稲越断層の活動履歴調査  
○中村耕佑・安江健一
- P-7 長野県北部,野尻湖西方における向新田断層の約3万年前以降の活動履歴  
○竹下欣宏・花岡邦明・近藤洋一・関めぐみ・宮下 忠・  
中川知津子・廣内大助・野尻湖地質グループ
- P-8 宇宙線生成核種  $^{10}\text{Be}$  を用いた深度断面法による活断層の平均変位速度推定  
-根尾谷断層,能郷地区中位段丘面を例として-  
○小倉祐弥・金田平太郎・太田凌嘉・松四雄騎・松崎浩之
- P-9 UAV レーザ測量による阿寺断層中部の微地形調査(その1)  
○安江健一・土井駿仁・細矢卓志・中瀬千遥・後藤 慧
- P-10 UAV レーザ測量による阿寺断層中部の微地形調査(その2)  
○細矢卓志・中瀬千遥・後藤 慧・安江健一・土井駿仁
- P-11 森林内における活断層に係る微地形の把握:阿寺断層帯の例  
○土井駿仁・安江健一・島田耕史

- P-12 阿寺断層帯中部におけるピット調査と放射性炭素年代測定  
安江健一・○原田隼輔・國分（齋藤）陽子・廣内大助
- P-13 ボーリングデータベースに基づく上町断層帯の浅部変形構造  
○川嶋渉造・堤 浩之
- P-14 高速増殖原型炉「もんじゅ」敷地に達する白木一丹生断層の断層変位地形  
○中田 高・渡辺満久
- P-15 福井県三方郡美浜町新庄地区における敦賀断層の第四紀後期の活動性  
○瀬能正太郎・立石 良・島田耕史・岩森暁如・小川昌也
- P-16 広島平野周辺の山地域に分布する活断層－ALS に基づく高精細ステレオ地形  
画像の作成と判読－  
○後藤秀昭・牧田智大・山中 蛍
- P-17 熊本市周辺（水前寺断層および立田山断層東方）における反射法地震探査  
○吉見雅行・丸山 正・山田浩二・秋永康彦
- P-18 2016 年熊本地震の地表地震断層における地中レーダ探査  
○谷口 薫・渋谷典幸・小俣雅志・渡邊和輝
- P-19 布田川断層田中地区における熊本地震前トレンチの再掘削：熊本地震による  
壁面変化について  
○山根悠輝・原 勇貴・鳥井真之・遠田晋次・  
石村大輔・高橋直也・奥野 充・福田泰英
- P-20 熊本地震の主断層トレースから離れた位置で生じた微小変位箇所近傍におけ  
るトレンチ調査結果－平川馬場トレンチ－  
○渋谷典幸・小俣雅志・渡邊和輝・谷口 薫・杉本 惇・足達健人
- P-21 2016 年熊本地震の地表地震断層周辺における地表変形特性の分析  
○山下日和・鈴木康弘・向山 栄・室井翔太・山下久美子・  
福場俊和・村木昌弘・杉本 惇・小俣雅志
- P-22 出ノ口断層の東方延長上に発達する「小段」のピット調査とドローンレーザー  
測量，および阿蘇カルデラ西壁の地質  
○辛島康大・辻 智大・岡村文義
- P-23 2023 年モロッコ地震における InSAR を用いた変位分布の把握  
○橋本裕紀・杉本 惇・小俣雅志
- P-24 土砂運搬作用を考慮した数値シミュレーションによる断層変位地形の再現  
○佐藤大河・安江健一・谷川晋一・  
三箇智二・野原 壯・島田耕史

P-25 ETAS 地震発生シミュレーションによる背景地震の規模別頻度分布評価

○野上風馬・野口 朗・隈元 崇

P-26 縦ずれ断層の進展過程に鉄道構造物基礎が与える影響に関する検討

○山田雅紘・谷山 尚・日野篤志

11月11日（土）午前

一般研究発表（口頭）

座長：石辺岳男

- 9:00 O-9 3-D Fault Geometrical Effect on the 2023, Kahramanmaras and Ekinozu, Turkiye, Earthquake Sequence Revealed by Dynamic Rupture Simulation  
○Ryosuke Ando, Ali Pinar, Doğan Kalafat, Haluk Ozener, Esref Yalcinkaya and Yojiro Yamamoto
- 9:20 O-10 S波反射法地震探査（横黒第1測線・第2測線）からみた中央構造線断層帯川上断層における浅部地下構造  
○木村治夫・近藤久雄・黒澤英樹
- 9:40 O-11 立田山断層周辺における地盤振動特性  
○鈴木晴彦・松山尚典
- 10:00 O-12 布田川断層田中地区における熊本地震前トレンチの再掘削調査  
○遠田晋次・鳥井真之・山根悠輝・原 勇貴・石村大輔・高橋直也・奥野 充・福田泰英

休憩（10:20-10:40）

座長：木村治夫

- 10:40 O-13 知多半島の活断層－地理院活断層図「師崎」の新知見  
○鈴木康弘・石山達也・岡田篤正・安江健一・五味雅宏
- 11:00 O-14 小鳴門海峡周辺域における最終間氷期以降の地殻変動  
○加藤茂弘・生野賢司
- 11:20 O-15 主要活断層帯を対象とした広域三次元応力場ならびに Wallace-Bott 仮説を用いた断層すべり角推定～断層形状の不確定性が推定に及ぼす影響について～  
○石辺岳男・寺川寿子・橋間昭徳・Thystere Matondo Bantidi・望月将志・松浦律子
- 11:40 O-16 活断層の長期評価と地震動予測を社会にどう伝えるべきか（その2）  
○鷺谷 威・橋富彰吾

12:00-12:20 表彰式

11月11日(土)午後

## シンポジウム 「九州のテクトニクス」

### 【趣旨】

九州には、地震調査研究推進本部による「活断層の地域評価」の対象となっている28の断層帯があり、その一部の活動によって2005年福岡県西方沖地震、2016年熊本地震などの被害地震が近年発生しています。また、阿蘇、九重、雲仙、桜島などの活火山も多く、2011年には霧島の新燃岳で大規模な噴火が発生しました。その背景となる広域応力場として、引張成分が卓越する領域が広く分布していることから、九州は日本列島の中で特異な地域とされています。将来発生するジオ・ハザードに備える上でも、その地域のテクトニクスをよりよく知ることは重要です。本シンポジウムでは、地質構造、地殻変動、地震活動、火山活動など、地球科学の様々な観点から九州のテクトニクスについて考えたいと思います。

13:20 趣旨説明

青柳 恭平 (電力中央研究所)

13:30 S-1 九州の地殻活動場

松本 聡 (九州大学)

14:00 S-2 活断層データから見た九州のテクトニクス

堤 浩之 (同志社大学)

14:30 S-3 測地観測に基づく九州の地殻変動と活断層分布

西村 卓也 (京都大学)

(休憩 20分)

15:20 S-4 古応力解析から見た九州中部の第四紀テクトニクス

大橋 聖和 (山口大学)

15:50 S-5 重力異常から見た北部九州の活断層

西島 潤 (九州大学)

(終了 16:30)